

# 「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



## Seondo Middle School



## 庄原市立総領中学校

### 交流の概要

学 年：第2学年

単元名：Our Project 5 日本のおすすめスポットを紹介しよう  
(Sunshine English Course 2)

ねらい：日本に興味をもってもらうために、修学旅行で訪れた京都のおすすめスポットについて自分の体験を交えて紹介することができる。  
(全2回のオンライン交流のうちの2回目)

おすすめスポット紹介の様子



フリートークの様子



### 活動内容：

#### ①挨拶（グループ）

2つのブレイクアウトルーム（1グループ8名程度）に分かれ、簡単な挨拶を行った。1回目の交流の時より笑顔で挨拶する生徒が増えた。

#### ②京都のおすすめスポット紹介（グループ）

日本の中学生が、京都のおすすめスポットを各自1つずつスライドを使って紹介した。発表の最初に韓国語で挨拶したり、実際に修学旅行で訪れた京都での体験を伝えたりするなど、相手に日本に興味をもってもらうために工夫する姿がよく見られた。

#### ③韓国のおすすめスポット紹介（グループ）

韓国の中学生が、韓国のおすすめスポットを各自1つずつスライドを使って紹介した。相手の発表にリアクションしたり、即興で考えて質問したりしようとする姿が見られた。

#### ④フリートーク（グループ）

4つのブレイクアウトルーム（1グループ4名程度）に分かれ、互いの発表内容について質問し合ったり、1回目の交流を通して聞いてみたいことなどを自由に交流したりした。生徒は意欲的に取り組み、1回目の交流よりも自然に会話をすることができていた。

《交流方法：Zoom》

### 大切にしたこと

- ・交流内容や当日の詳細なタイムスケジュール、グループ構成等について、相手校と細かく連携した。
- ・当日の交流を円滑に行うために、事前にZoomを使ってリハーサルを行い、生徒には画面共有等の操作に慣れさせた。
- ・即興でのやり取りの時間と一人一人の生徒の発話量を確保するため、フリートークでは少人数のグループ構成とした。
- ・相手意識をもたせ、相手が興味をもってくれそうな内容や、わかりやすい表現・単語を使ったプレゼンテーションになるように指導した。
- ・全学年2回ずつオンライン交流を実施し、特に第2学年ではオンライン交流後にメール文のやり取りも行うことで、各回の交流につながりをもたせた。

### 交流を終えて

#### 生徒の声

- ・聞きたい質問を英語ですることができて嬉しかった。
- ・フリートークの時間に一人一人と話することができて楽しかった。
- ・相手に何度も聞き返したり、曖昧な返しをしてしまったりしたのが申し訳なかったので、リスニングの技能を鍛えておこうと思った。
- ・自分たちの発表が終わると、韓国の生徒が覚えた日本語で「ありがとうございました」と伝えてくれたり、自分たちが話す前に「頑張れ」と声をかけてくれたりして嬉しかった。

#### 先生の声

- ・最初の交流では緊張する生徒も多かったが、やり取りをしていくうちに笑顔が見られるようになり、英語が苦手な生徒も自分の言いたいことを伝えようとしていた。
- ・海外の人と関わる機会が少ない本校の生徒にとって、英語で意思疎通を図ることの楽しさや大切さを知る貴重な経験になった。英語学習への意欲の向上にも繋がった。
- ・オンライン交流では即興でのやり取りになるため、普通の授業でも自然なリアクションや関連した質問をする力など、会話を継続するための指導が必要だと感じた。